



# Fグループ会報

## 新しい志をもって

### —新学部発足にあたり—

フェリス女学院学院長

中島省吾

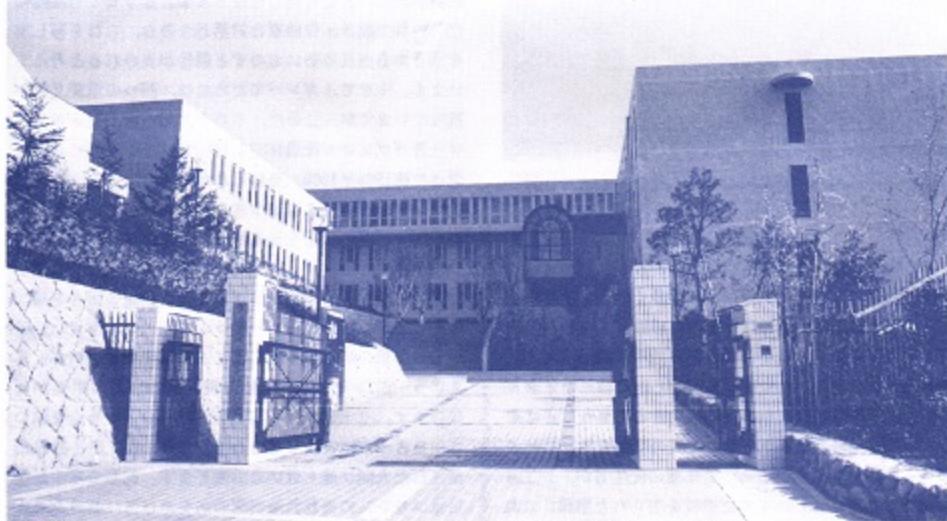


1984年(昭和59年)春以来、短期大学音楽科の先生方、学院の理事その他関係者、また、学院内外の専門家とご相談し、計画を練り、行政上のいろいろな関門を乗りこえるために筆舌につくしえないような数多くの困難を取り組んできた努力と祈りが実って、去る1988年12月に大学音楽学部の設置が認可され、今年4月に音楽学部の

第1期生59名が入学しました。また、これを契機に秀れた専任の先生方を多く新たにお迎えすることができました。前号(第17号)で佐藤馨学長や長井朋子さんが紹介された緑園校舎の5号館や山手の新4号館も完成されました。山手の新4号館では8月からバイオ・オルガンの搬入・組立が始まり、11月末まで米国から出張してきたオルガン業者が調律に全力を傾げることになっています。

フェリス女学院は、これに伴って、短期大学の1年生の募集を停止しました。1990年4月からは、フェリスは、中学・高校と2学部(文学部と音楽学部)制の大学とで構成されることになります。フェリス女学院大学は、人文系の2学部から構成され、関東地方のキリスト教系諸大学において、また神奈川県の東海道線・横須賀線沿線では唯一の音楽学部をもつ大学としてスタートしたわけです。しかもオルガンを全学生に必修させ、プロテスタント教会音楽の研究と演奏とともに力を注ぐとともに、国際化を指向しつつある文学部の学生たちと同じキャンパスで一般教育・外国语などを一緒に学ぶことにより從来以上に豊かな人文的教養を身につけた音楽学生を育てるという新しい課題を担うことになりました。

Fグループの皆さんは、このような新しい関係での後輩たちをいずれそのお仲間に迎えられることになります。フェリスにおける音楽の教育と研鑽とともに新しい志をもって参加されるとともに、後輩の育成のために、また、学校の充実・発展のために、これ以上のご支援・ご加勢をお願いしたいと思います。学院関係者ばかりではなく、広く音楽界またキリスト教界の期待が寄せられていることを想うこの頃です。



## 同窓会総会報告

今年のFグループ総会は、緑園都市に新設された校舎を見学する事を第1の目的として、去る6月18日に開催されました。当日は、低く垂れこめた雲から、いつ止むとも知れぬ小穂雨、という生憎のお天気でした。

初めて降り立った緑園都市の駅は、想像以上に明るくセンスの良い街で、学校まで4、5分の道程は、まだあちこちに建設中のマンションや住宅の様子から、これから発展し栄えて行く街という印象でした。校門から見た校舎は、モダンでシンプル。礼拝堂は大変明るく、壁や座席に使われている木が窓からの光と調和して、やわらかく、又とても温かい雰囲気でした。山手のカイバ講堂の歴史を感じさせる落ち着きのある重厚なイメージとは正反対です。

総会は、田中順先生の司会で礼拝より始まり、中島会長の挨拶に続き、佐藤馨学長より、今年が4年制大学

のスタートの年であると共に、短大最後の学生を送る大切な1年であることや、当世学生気質等を交えて御挨拶いただきました。

その後、学内見学となりましたが、自分達の勉強した校舎とのあまりの違いにまずびっくり。モントーンの室内や廊下は、ドアの色がアクセントで、それが1階と2階では色が違うという心遣いです。どの部屋もきちんとした防音設備が施され、ドアの外にはレッスンを待つ為の小さなベンチがありました。2階の天井は円柱型の明かり取りがあり、圧迫感をなくす工夫がしてあります。とにかく、すみずみまで至れり尽くせりの設備でした。1部屋覗く度にあちこちから歎声が上がり、「わぁ!ホタルみたい!」「すごいわねえ。これで上手にならなかったらおかしいわよねえ。」と、大騒ぎ。山手の4号館しか知らない卒業生や、5号館で満足して学生生活を送った者にとっては、雲泥の差の環境でした。ただ、設備がどうあれ、一生懸命音楽に取り組む姿勢は、昔も今も変わらないでしょうし、変わって欲しくないと思いました。

## 充実した大学をめざして

フェリス女学院大学 音楽学部長

フェリス女学院短期大学長 事務取扱

佐藤馨



音楽科同窓会の皆さん、お変わりなくお過ごしのことと存じます。6月18日の午後は小雨模様の天気でしたが、大学緑園校舎で催された同窓会総会に招かれ、なつかしい多数の卒業生にお逢いし、楽しいひとときを過ごすことができました。皆さまそれぞれに美しく、またそれぞれの分野で立派な活躍をされているようで、こんなうれしいことはありません。

中島省吾学院長を先頭に、多くの方がた、とりわけ卒業生の皆さまのご支援のもとに発足した音楽学部は、4月から3学科(声楽学科・器楽学科・楽理学科)59名の学生による授業が、緑園校舎で開始されています。緑園校舎では、2学年までの学生が学びます。音楽学部の1・2学年は文学部の学生とともに、ここで一般教育科目を学ぶわけです。話が前後するようですが、文学部はやはり3学科(英文学科・国文学科・国際文化学科)からなり、フェリス女学院大学はいま、2学部6学科からなる充実した大学づくりに全学をあげてとり組んでいます。音楽学部の学生が、技術偏重に頼かないで、教養ある芸術家に育っていくために、若き日の文学部の学生との交わりが有意義であるよう願っています。わたくしなども、文学部や一般教育のすぐれた学者の方がたと接するたびごとに、いろいろな刺激をうけ、また啓発されることが多いのです。

皆さまが学ばれた山手には、本年3月、450席の演奏ホールが完成し、11月末までは大型バイオ・オルガンが据えつけられます。来年度からは、ここで本格的な演奏活動がはじまるものと思います。現在、山手校舎には短期大学最後の学生(2学年、専攻科、研究生)が学んでいます。これらの学生は、わたくしの見るところでは、過去の学年と比較してもっとも高いレベルを維持しています。短期大学最後の学年として、先輩の皆さまに、恥じない立派な成果をあげてくれるものと信じています。

卒業生の皆さま、今後とも母校を愛し、ご助力を賜りますよう、お願ひいたします。

わらないでしょうし、変わって欲しくないと思いました。図書室は、文学部と一緒に、本の種類も多方面にわたり、豊富でうらやましい限りでした。各々が自分の学生生活を振り返り、ちょっぴり時代の流れを感じ、ため息をつきながら、学食で軽い食事を取りました。学食とは言っても、広々とした高い天井の清潔な空間で、声のよく響く活気のある部屋に、またびっくりしました。自分達の後輩達が、この恵まれた雰囲気を大いに活用し、学生生活が充実したものとなることを祈りながら、総会は終了しました。

今回唯一残念だったのは、出席のはがきを出されながら、何の連絡もなく当日お休みになった方が10数名いました。前もって準備にあたった係の方の御迷惑は計り知れず、卒業生のモラルとして気をつけたいものと痛感しました。

## 記念すべき年に当たって

会長 中島恭子（9回）



皆様お元気でお過ごしのこととお喜び申し上げます。今年は音楽科にとって大きな飛躍の年となりました。大学音楽学部がこの4月から緑園キャンパスでスタート致しました。40年続いた短大音楽科も来春の卒業生を最後に幕を閉じることになります。しかしながら、この短大音楽科での実績が大学音楽学部への道を開いたと確信しております。短大音楽科でのすばらしい先生方との出会い、同級生、上級生、下級生と共に過ごした楽しい学生生活、その他数々の思い出は、皆様の心の中に常に生きていると思います。フェリスで学んだことへの誇りと、深い感謝の気持ちとは誰もが持っているでしょう。先日来、募金活動を始めましたのもうした皆様の気持を大切に一人でも多くの方が参加しやすいように考え、過日お知らせ致しました方法をとりました。どうぞこのことを御理解いただき多少にかかわらずぜひ御協力下さいますようお願い申し上げます。

山手には、すてきな音楽ホールの建物が完成致しました。フェリスの伝統である教会音楽を中心、この場所で行われるこれから音楽活動が、地域社会の人々にも認められ、貢献出来たらどんなにかすばらしいでしょう。今後の大学音楽学部が大学の名にふさわしい学部として成長し、発展していくことを心から願っております。私は同窓生も良き先輩として、常に努力し、前進しなければなりません。4年後には、音楽学部の卒業生を迎えることになります。これを機会に、今後の同窓会の在り方についても考えていくたいと思います。ぜひ皆様の御意見をお聞かせ下さいませ。最後に、この記念すべき1989年を祝福し、神に感謝をささげましょう。

## 生きている音楽

佐藤ゆり（25回）

土曜日の朝、鎌倉中央公民館へ超熟年男女が次々と入っていく。友達同志連れ立って来る人。杖をついて来る人。風呂と大阪で来る人。座さんに手を取られて来る視覚障害の人。10時から始まる高齢者合唱教室の受講者たちだ。昨年から市が60歳以上の方の為に開いた講座で、最高年齢は88歳である。この異色の合唱団を発足時から私が指導させていただいている。80名でスタートしたが2ヶ月後の公民館フェスティバルで注目をあび、1年目は180名。2年目は会場一杯の280名である。これだけの人を一度に2時間教えるのは大世帯だけに難しい。

卒業以来16年間、私は三宅春恵先生のレッスンと木下発声研究所に通い続けて来た。そして、リサイタル、ショートコンサート、パロックアンサンブル等なるべく本番を踏むように心がけて来た。三男一女を育てながらコーラス、アンサンブル、個人レッスンなど多くの方々を指導しているが、この経験を生かしても高齢者合唱教室は難しい。顔ぶれが多彩すぎるのだ。皆が満足する事は何か。それは一人一人が感動をもって歌う事以外にはない。それを引き出すのが私の仕事と思っている。昨年度は前半に誰もが口ずさんで来た曲100曲を歌い、後半はそれをまとめて発表会とした。発表会は多くの方々が涙を流して聴いて下さった。歌う人の心にある様々な想いを掘り起す為、作曲者、作詞者、時代背景などを話しているが、重く長い人生を歩んでこられた方々の想いは上手な合唱ではないが聴く人に何かを伝えている。

心に届く歌という事を私は春恵先生から教えていただ

## 今こそ 母校愛を

大庭照子（10回）

初めての試みである。同窓会による募金委員会設立にあたって、いろいろな御意見をいただき、心からうれしく思っております。若い同窓生の方からは、学校とまた接点ができてうれしいとか、少ない額でも恥ずかしくないので助かる、というお電話もいただきました。一方では母校愛なんてくだらない、卒業したら関係ないとおっしゃる方もありました。私達は、うれしいと言って下さったお声を、大事にしたいと思っております。

先日の新しい校舎での同窓会総会では、キリスト教の学校にふさわしく、田中順先生によって、礼拝が行われました。聖書のエペソ書の朗読を聞き、讃美歌を歌っているうちに、私はもう卒業して30年近くにもなりそうな昔のことなのに、学生時代の礼拝や、また、先生方から素晴らしい教育を受けたことを、ありありと思い出し、感謝で胸がいっぱいになりました。そして、ただ感謝の気持だけでなく、行動にうつさなくてはと思いました。学校に喜んでいただけることのできるチャンスを、神様は募金委員会という形で与えて下さったような気がします。でも、今回の委員会は、ただ単に募金のためだけのものではなく、同窓生が一丸となって、母校を考えることができます。それができると、期待しています。そして、1月には、楽しいコンサートも計画しています。コンサートの内容は、過去、現在、未来、という三部形式の予定にしております。どうぞ、御協力くださいますようお願い致します。



いた。いつもこの曲なら先生はどう造られるかと考えている。昨年7月、先生が童謡を交えた日本の歌のリサイタルを鎌倉で催された。合唱教室の多くの人が演奏を聞き、小さな童謡がドラマになるのに感動し、自分たちと同世代の春恵先生の演奏される姿に力づけられました。ホセ・カレーラスが白血病から再起し、そのリサイタルは熱い拍手を呼び起したが、心に生きる音楽とは正にその人の生き様ではないだろうか。真の音楽を教え続けて下さった春恵先生をはじめ、ご年輩の先生方が、フェリスが4年制になったのを機に学校を去られた事は、これから育つ多くの後輩の為に残念でならない。

この1年余り合唱教室内外の方々から、様々なお便りをいただいた。自宅に引きこもっていた一人暮らしの方が積極的な話。病気がちの人が、気持に張りが出て1年間元気だった事。お姑さんが明るくなつて助かっているお嫁さんの話。発表会をほめられ、これからも堂々と生きますと手紙をくれたのは、腰が二つ折れに曲がった80歳のおばあさんだ。多くの方が歌う事で生き生きと失ないかけていた自信をとりもどして下さった事は、私の大きな喜びであり驚きでもある。これからも勉強を重ね、社会に生きる音楽を求め続けたいと思っている。



## 古楽器の響きに魅せられて

神戸倫樹美（20回）

昭和45年に専攻科をヴァイオリン専攻で終了したころ、世には確かにヴィオラ・ダ・ガンバ（略してガムバ、別名ヴィオル）という西洋古楽器が流行しはじめておりました。私は村井範子先生の音楽史の授業で初めて見せていただいた興味を持ち、大橋敏成先生（現上野学園大学教授）が経営の学内演奏で弾かれたマラン・マレの曲の最終和音のジャラーンの素敵な響きに魅せられて、遊び半分始めたのが運のツキでした。春の御殿場の合宿で、ヴィオル・コンソートに加わって、これが私の求めていた音の世界だと思ったのでした。この合奏形態は、大中小のガムバの組み合せでひとりひとつのパートを受け持つので、個性が發揮されていてなお全体が美しく調和するところが魅力です。その後スイスとオランダで学び、帰国後は演奏会やテレビ、ラジオで演奏したり、母校と国立音楽大学でヴィオラ・ダ・ガムバを講じたりしています。

さてこのガムバは古楽器のひとつで、リコーダーやチュンバロなどと共に使われていました。が、古楽器といえば、他にもピアノフォルテ（ピアノの前身）も知られるようになります。昨今では古楽器を用いた演奏会はひと晩のうちに日本中4～5ヶ所で行われるほど広まっています。

どうしてこのように市民権を得てきたかと申しますと、モーツアルト以前の音楽には、ロマン派特有の解釈を加える表現方法よりも、作曲家の想い描いた本来の音像をありのままに写し出す方が自然で生き生きとしていると感じる人が増えたからなのです。私共は、例えばバッハが聞いた音はどのような音で、どのような音楽表現を想い描いたのだろうか？なぜその曲を作ったのか？と考えます。手稿譜を見て、古楽器（当時使われていた状態の楽器）を用い、当時より残っているホールで、ふさわしい奏法をしながら、文献を頼りに弾いてみます。そればかりか作曲家をとりまく背景を知ろうと、絵画、文学、経済、社会の習慣も関心を持ちます。こうして一度貰て自分の耳で聞き、作曲家と対話をしたのち、これを写し出そうとする演奏姿勢におのずと個性が表われると考えています。さて、ガムバのためにには、四つの重要な文献が残っていますが、この度、そのうちの一冊、ジャン・ルソー著『ヴィオル概論1687』（邦訳アカデミア・ミュージック株1988年4500円）を11年かぎりで全訳完成しました。フランスのバロック音楽つまりヴェルサイユ宮殿の音楽が花開く直前の様子を知る稀少な日本語の文献です。中から紹介すると：

起源に関する論考では「ヴィオルの歴史の古さを論証することから始めよう。…我々の先祖（アダムとイヴ）が蛇の言葉を軽々しく信じたことに端を発していると言えよう…p.7」と、科学万能の現代とは論証の根拠が異なります。ヴィオルは「言葉を語れない」という点を除いて何ひとつ人声と異なるところがない…p.7」と神の創造された人間に最も近いと力説します。起源の章の最後にはフランスの優れた演奏家の名をあげて、フランス人らしく「ヴィオル奏法は最終的に完成され…p.21」とあります。第2部の奏法には「概論の形をとつてある奏法について述べようとする以上は、その奏法と明らかに関係のある事柄は何ひとつ省いてはならない…p.22」とあります。この本の中の論争点を見ていますと時代は変化すると、つくづく考えさせられます。さて、21世紀の音楽はどんなものでしょうか。こうした原典主義に立脚した演奏態度は今後ますます好まれていくことでしょう。そして、当時の音楽はすべてといつてもよいほど作りたての現代音楽であったことを考える時、今後は現代音楽がもっと身近になってよいのではないかとも考える今日このごろです。

この本の中の論争点を見ていますと時代は変化すると、つくづく考えさせられます。さて、21世紀の音楽はどんなものでしょうか。こうした原典主義に立脚した演奏態度は今後ますます好まれていくことでしょう。そして、当時の音楽はすべてといつてもよいほど作りたての現代音楽であったことを考える時、今後は現代音楽がもっと身近になってよいのではないかとも考える今日このごろです。

## 楽しい集いを重ねて

中村侯子（15回）

「明るく、個性豊か」と、先生方からお誉めの言葉をいただいた学年。

先日、25回目のクラス会が行われました。卒業して25年、ますます個性豊かで、それに貴重な加わり、すばらしい中年の集まりでした。私達の会は、三宅洋一郎先生を囲んで、毎年行われます。数年おきに、倉長治子先生、中田喜直先生、萩原英彦先生、三宅春恵先生他をお迎えしています。20回目には、16回生、17回生との3学年合同の会をしました。他の学年の方々からもとても喜ばれ、又いつか、計画しましょうということになっています。



クラス会での先生のお話を通し、私達は、フェリスを身近に思い、そこで学んだことを喜び、どのような環境にあっても、出来る範囲で、音楽を続けていかなければと思うようになりました。多くのクラスメイトが、それぞれの生活の中に、音楽を生かし、続けています。お互いに、刺激し合いながら。

3年前のクラス会で、「もう一度、バッハを勉強してみたい」との提案から、有志による「ゼミ」が始まりました。三宅先生に御指導いただき、年に数回、7名で勉強しています。毎回ゼミに行くのが楽しみで、勉強する喜びが、この年齢になってわかったような気がしています。しかし年齢には勝てず、いろいろ大変ですが、皆がんばっています。

私達は、よく遊ぶこともあります。音楽会には大勢で行き、帰りには、お茶を飲みながらおしゃべりをします。グルメめぐりも、時々あります。たまに、旅行にも行きます。又、デパートのお買物ツアーもあります。とうとう、年中顔を合わせていないと落ち着かなくなり、お菓子教室が始まりました。毎月1回集まっては、ケーキを作りますが、ケーキ作りは二の次、目的はおしゃべりです。手より口の方が達人に動くので、先生は大変です。小田原からお菓子教室に来る友は、毎回干物を30枚運んできます。小田原直送の干物とケーキをたずさえて、それぞれの家に帰るのは夕方。夜の食卓は、どの家も干物が並びます。

「西洋音楽を学ぶのに、もっともふさわしい学校。横浜にあり、ヨーロッパのかおりがある。それ故、どうしてもフェリスに来たかった。」と、数年前のクラス会で萩原先生が、フェリスで学びたくて先生になられたことを語られました。三宅先生をはじめ、多くの先生方のこのような熱い祈りに支えられ、私達は、フェリスに学んでいたのだと、その時改めて思いました。

すばらしい先生と出会い、良き仲間と出会い、音楽を学び、人生を学んだのです。そして、学び続けていきたいと思います。

## 塙原瑛子先生を囲んで

相澤 寿（11回）

関東地方が梅雨入りになりました6月9日㈬、肌寒い日になってしまいましたが、フェリス女学院短大音楽科で塙原先生から御指導いただきました者が集まり親睦会をいたしました。

短大も本年度から大学へと大きく飛躍しました。これを機会に受験前から、学生時代、そして卒業後と熱意と愛情をもって導びいてくださった塙原先生に感謝をこめて集まりましょうということになり実現いたしました。第6回生からまだ名簿に記されていない方まで20数名の出席でした。



先生からはレッスンの時にはお聞き出来ないようなお話をうかがうことができました。同窓会会长の中島恭子さん（9回）からは大学設立の経緯についてのお話があり、キリスト教を基盤にする音楽学校としての発展のために同窓生の協力を呼びかけられられました。

軽食をはさんで柳原節子さん（28回）のソプラノ独唱、小野美乃里さん（38回）のピアノ独奏があり最後の桑原妙子さん（9回）指導によるコーラスでは「その音いつもはずれているのですけれど」などとやさしく注意をうけながら本当に楽しい会でした。

塙原先生の今後ますますの御活躍と御健康を祈りつつ散会いたしました。そしてこれが第1回目となり、今後はいろいろな形で回を重ねていきましょうと語り合いました。会場は茅ヶ崎の小池園美さん（18回）がお家を開設してくださいました。家庭的なそして音楽を中心としての親睦のひとときでした。

## いつまでも歌い続けたい……

町田信子（18回）

皆様、お元気ですか。卒業してから22年、ずいぶん月日が経ってしまいました。

現在、私は本業は主婦ですが、ここ何年かいろいろな演奏会に恵まれ、歌ってまいりました。

そもそも結婚当初は、歌をやめておりましたが、育児疲れの毎日のある日、主人の「ピアノまたやったら」との言葉に「そうだ、ピアノをやろう（なぜか歌ではありませんでした）」と思い立ち、塙原瑛子先生にレッスンをお願い致しました。そして数年、やはり歌を勉強したり、幸い紹介して下さる方があって、辻有子先生にお世話になることになりました。そして又々御縁があつて、朝倉蒼生先生のもとに通うようになって現在に至っております。

最近では、横浜市の市民広間演奏会のオーディションに合格し、毎年支局舎で歌わせていただいております。又、横浜シティオペラ公演の合唱を2年やらせていただけ、大変勉強になりました。

昨年の11月には、ダルトン・ポールドウィン先生の公開レッスンを受けさせていただきました。言葉がしゃべれず残念でしたが、先生の暖かいお人柄、音楽に間に触れることができ、大変感激いたしました。又、今年4月にはFグループのサロンコンサートにも出させていただきました。これまた10曲ということで大変緊張いたしました。

そうしていつも結果は満足できるものではないですが、それらをめざして勉強している時の自分は大変充実している毎日を送っているように思えます。（ちょっぴり家族に当たったりしますが……）又、歌を通して、若い方から年輩の方までいろいろな方と知り合うことができました。

今年はあと8月には関内ホールで、10月頃には磯子区の木曜コンサートが、又来年1月には大倉山記念館でのコンサートに出演が決まっています。

一生懸命に何回も歌う機会に恵まれて大変幸せだと思っております。若い方と違って、受験とかコンクールとかの目標はないのですが、歌うことが好きなので、これからも少しずつ勉強をしていきたいと思っております。

## <中部支部>

岡本博子（15回）

今年は雨の合間にカラッとした晴れ間があり、蒸し暑い当地としては比較的過ごしやすい梅雨の季節を過ごしております。皆様、お変わりございませんか？

平成元年のスタートは、7回目を越えた毎年恒例のジュニアコンサート、この初会合から始まりました。

会場は役員津沢さん（14回）のお陰で早くから押えることが出来、後は参加者の数だけが心配の種でした。が、今回は70名の出演希望者が集まり午前10時から4時半まで無事終了するかとハラハラする程でした。今年のプレゼントは同窓生のお世話で、セントボーリアの鉢とキャンディーセットでした。子供達から好評でした。

3月21日 童謡三人展（愛知厚生年金会館）

大庭音楽事務所主催のコンサートに、役員水原元子さん（8回）と大橋多美子さん（20回）の地元出演者を交えて催されました。和やかな楽しいコンサートでした。

5月28日 公開講座（コンサートホールアバ）

今年のメインイベントである公開講座、今回は名古屋に御縁の深い三宅洋一郎先生を講師にお招きまして、シャーマンのユーダントアルバムを教材にしました。住田桃衣さん（38回）浜野晶子さん（39回）に演奏して頂き、シャーマンの音楽について貴重なお話を伺う事が出来ました。ユーダントアルバム、一曲一曲を丁寧に説明され、先生自ら厚みのある音色で演奏して下さり、子供のためのアルバムですが改めてシャーマンの音について考えさせられる講座でした。休憩なしで予定もはるかに延長されました。出席下さった方々から、とても良かったとの声が多く、役員一同良い企画だったと自画自賛しております。

6月9日 大橋多美子さん（20回）のリサイタル（電気文化会館ホール）

あいにくのお天気にもかかわらず、大勢のお客様で素晴らしいリサイタルでした。

以上、今年の行事が大半すんだ所で、6月30日役員会を開き、中部支部の今後の運営について話し合いました。会員に毎回催し物を連絡いたしますが、いつも限られた出席者で、なかなか若い方達が参加して頂けないのが大きな課題です。役員一同これからは、もっと若い方達にも参加して頂けるようなFグループ中部支部にしていきたいと考えております。

## <西南支部>

牛島惇子（19回）

1年が過ぎるのはやいもので、今年も又、皆様にお便りする時期がやってまいりました。

私共西南支部は、毎年5月に同窓会を催して親睦を深めておりますが、今回はいつもと趣向を変えて、サロンコンサートを行いました。

当日は日曜日で、結婚式や、御子様方の春の運動会と重なったこともあり、出席者がやや少なめでしたが、永松博子さん（22回）、安達桃子さん（37回）がピアノ演奏して下さり、長千栄子さん（23回）、熊谷知子さん（31回）のお二人が連弾を聽かせて下さいました。人前で演奏する機会がとだえると、再び行うのは大変勇気がいることと思われますが、このように、仲間内で気楽に聴き合えれば、お互い勉強にもなり、励みになるのではないでしょうか。

来年度も、この形式で行えたらと考えておりますので、西南支部の皆様方、是非、発表の場として御利用下さい。

又、この日は、横浜より中島恭子会長もおいで下さいて、4年制大学となった、母校の最近の様子や、先生方の消息などを、いろいろとお話しして下さいました。

ここ数年、西南支部は、若い卒業生が増えたのですが、流動的で、今一つ動向がつかめません。支部事務局は、日本楽器福岡支店内に置いておりますので、どうぞ、何かの折には、そちらの方へご一報下さい。

母校も大きな転機を乗り越え、新たなスタートをした今、私共は微力ながらも、何らかの形で協力出来ればうれしく思います。今後の、ますますの発展を祈っております。

1990年度の入試日程と先生方を御紹介いたします。

## 1990年度音楽学部入学試験日程等(一般・推薦・帰国・留学生)

		一般入学試験	推薦入学試験	帰国子女入学試験	留学生入学試験
出願期間	1月17日(木)~31日(木) 消印有効	'89 11月28日(火) ~12月5日(火)消印有効		'89 11月28日(火)~12月5日(火) 消印有効	
入学試験日	2月14日(木)~16日(土)	12月12日(火)		12月12日(火)	
書類提出期間	3月9日(金)~14日(水)	3月9日(金)~14日(水)		3月9日(金)~14日(水)	
入学試験会場	山手校舎	山手校舎		山手校舎	
募集人員 声楽学科 器楽学科 楽理学科	20名 20名 10名	3学科で合計3名		若干名	若干名
試験内容	◇共通科目 国語=国語I・II (古典・漢文を除く) 外国语=英語I・II 聽音、音楽通論 ◇実技または専攻科目	指定校に通知	◇共通 書類審査 面接 国語=現代国語のみ ◇実技または専攻科目	◇共通 書類審査 面接 日本語 ◇実技または専攻科目	

## 先生のお名前

## 同窓会連絡会

声楽学科 教授 渡邊 明(声 楽)	田中 順(声 楽)
芳野 雄夫(声 楽)	
助教授 朝倉 遼生(声 楽)	辻 有子(声 楽)
講師 金子 良子(ソルフェージュ)	大村 明子(ソルフェージュ)
村木ひろの(ソルフェージュ)	桑原 紗子(合 唱)
江口 元子(声 楽)	鈴木 寛一(声 楽)
花島 雅子(声 楽)	立木 美子(声 楽)
器楽学科 教授 林 純子(オルガン)	山崎 俊子(ピアノ)
宇野 紀子(ピアノ)	宗 施月子(ピアノ)
助教授 河野 輝(ピアノ)	久保 浩(ピアノ)
講師 塚原 瑛子(ピアノ)	手塚 敏子(ピアノ)
大島 君子(ピアノ)	辛島 仔緒子(ピアノ)
塚本ルリ子(ピアノ)	水本 雄三(ピアノ)
安藤 友民(伴奏)	
楽理学科 教授 村井 篤子(音楽学)	佐藤 譲(音楽学)
中田 喜直(作 曲)	
助教授 岡島 雅美(作 曲)	
講師 中内 美子(音楽学)	水野 勉(作 曲)
松本日之春(作 曲)	小冢ひろし(合 唱)
為本 章子(音楽学)	荒川 恒子(音楽学)
原 恵(基礎教育科目他)	

## サロンコンサートに出演して

## 上月早苗(23回)

4月20日、うららかな春の宵、横浜ヤマハFCホールに於ける、Fグループサロンコンサートに、井上真記子さん(22回)と、連弾で出演させていただきました。

ブームスのワルツを全曲演奏いたしましたが、合わせものの難しさは勿論ありますが、それを吹き飛ばしてくれる程の楽しさ。アンサンブルは本当に歓びを感じさせてくれました。同時に大変勉強になりました。

このような素晴らしい機会を与えてくださるFグループの存在そのものが、とても有難く、卒業生にとっては、大変心強く感じました。音楽を続けていく上で、発表出来る場をもてるというのは、とても幸運なことです。

又、コンサートには、自分が演奏することの他に、諸々の準備が必要です。Fグループの役員の方々が、細かい心遣いで色々な難事をして下さったことに感謝しても、厚くお礼を申し上げます。音楽会は一人では成り立ちません。奏者と聴き手とお世話をしてくれる方々があって、初めて成功するものだと痛感しております。

今回のジョイントコンサートに出演させていただいたお蔭で、改めてフェリスの卒業生である自分を意識することが出来、又、そのことの幸せをつくづく感じさせていただきました。

終わりに、ヤマハの方をはじめ、お世話をしてくれた関係者の皆様に、心より感謝を致します。

## 会計報告(1988年度)

収 入	支 出
前年度繰越金 13,034,453	三宅春惠先生パーティー費用 1,018,410
1988年度経費会費 1,530,000	研修会費用(大竹先生2回分) 275,000
三宅春惠先生パーティー会費 409,000	サロンショナート(5回分) 356,080
研修会券代(大竹先生2回分) 38,000	演奏会後援費 147,454
サロンショナート(5回分) 243,000	魔術費 140,000
同窓生返礼品券代(短大より) 26,800	中高支部関係援助金 16,370
エビストラ送料(短大より) 77,000	西南支部関係援助金 50,000
横浜銀行利息 12,025	中部支部会関係費 50,000
富士銀行利息 195,556	音楽科事務所へ 53,500
合 計 15,840,834	会報関係費 50,000
	会報関係費 250,860
	会議費用 179,220
	名簿送料 8,000
	事務用品、通信費 4,560
	合 計 2,335,454
	次年度繰越金 13,505,380

1989年3月末現在

## 役員紹介

会長 中島 英子(9回)
副会長 熊取谷春子(16回)
執行委員 安部 幸子(21回)
会計 藤村 公子(11回)
書記 熊取谷春子(39回)
会報 三宅 洋子(18回)
当番幹事 上方 明美(13回)
永田 格子(36回)
会長 中島 英子(25回)
副会長 永川 恵子(25回)
執行委員 栗原 明子(15回)
会計 藤村 公子(15回)
書記 清水 崇子(39回)
会報 三宅 洋子(18回)
当番幹事 上方 明美(13回)
永田 格子(36回)
会長 中島 英子(25回)
副会長 永川 恵子(13回)
執行委員 栗原 明子(15回)
会計 藤村 公子(31回)
書記 熊取谷春子(31回)
会報 三宅 洋子(18回)
当番幹事 上方 明美(13回)
永田 格子(36回)
会長 中島 英子(39回)
副会長 永川 恵子(39回)
執行委員 栗原 明子(39回)



## -「Fグループジョイントリサイタル」のお知らせ-

'89 9月12日(木) 7:00P.M.

神奈川県民小ホール ¥2,000

鈴木 康子(30回) フルート

黒川知栄子(25回) ピアノ

## -今年度「Fグループ研修会」のお知らせ-

初めての音楽との出会いに喜びを

クラウス・ルンツェ先生

'89 9月20日(木)・9月21日(金) 10:00A.M.~12:30

フェリス女学院山手校舎 541教室

ピアノ導入に際してのソルフェージュ

ピアノ導入に際しての現代音楽

大島 久子先生

'89 10月12日(木)・10月26日(木) 10:00A.M.~12:30

ヤマハプランズショップ横浜3階

## -Fグループ後援演奏会-

'88 11月11日(金) 連立リサイタル

沼津市民文化センター小ホール

山本はるみ(29回) ソプラノ

小野岡祐子(29回) ヴァイオリン

'89 6月1日(木) メゾソプラノリサイタル

カザルスホール

小林美代子(11回)

'89 7月27日(木) ピエール&amp;倫子モンティ

フルートとピアノデュオリサイタル

カザルスホール

堀中 倫子(22回)

後援のお申込みは3ヶ月前までに下記にお願い致します。

安部 幸子

## -「サロンコンサート」のお知らせ-

Fグループ主催で、卒業生の皆様方に演奏の場を持っていただけたら、という主旨のもとに行ってています。

第9回 '89 1月19日(木)

松岡 理枝(35回) ソプラノ

齊藤真理恵(35回) ピアノ

第10回 '89 4月20日(木)

町田 信子(18回) ソプラノ

{上月 早苗(23回) ピアノ連弾

井上真記子(22回)

第11回 '89 10月19日(木)

中山 一枝(35回) ソプラノ

坂東 和実(34回) ピアノ

第12回 '89 11月16日(木) 予定

第13回 '90 1月18日(木) 予定

第14回 '90 2月15日(木) 予定

ヤマハプランズショップ横浜 3階

6:30P.M.~8:00 ¥1,000(お茶つき)

TEL. 045-314-8251㈹

## -Fグループ主催演奏会

出演者募集のお知らせ-

Fグループでは下記の要領で演奏会を予定しております。出演を希望される方は、申込み用紙をお送り致しますので御連絡ください。

演奏会予定日 1991年6月ごろ

会 場 神奈川県民小ホール予定

券 の 負 担 1人100枚程度(1枚2,000円)

人 数 2~3人

申込み締切 1990年11月20日

連絡先 上記の安部幸子まで

尚、出演者はFグループ会員で先生の推薦のある方に限ります。また希望者多数の場合は書類選考とさせて頂きりますので御了承くださいますようお願い申し上げます。